

福島復興ヒューマン・ツアー



震災から3年。
福島の「今」を体感しよう！



起業家・NPO・企業...現地の
復興リーダーを訪問します！

■日程：3月13日（木）朝8:00出発～3月14日（水）夜帰着
■集合場所／解散場所：東京駅鍛冶屋橋駐車場

震災を契機に、現地では様々な課題が持ち上がりました。しかし、解決すべき課題が増えていくのとは逆に、その課題解決に取り組む人は減り始めています。
今回のツアーは、被災地の見学に加え、困難な現場で果敢に新しいビジネスを立ち上げている起業家やNPO、中小企業を訪問します。
ただ見るだけではない、リアルな被災地の「今」を体感できるツアーです！

1泊2日：15,000円

※参加費には交通費、宿泊費、食事代（1日目：昼食・夕食、2日目：朝食・昼食・夕食）、施設見学料、保険代が含まれています。

申し込み方法

氏名、性別、学部・学科・学年、学生証番号、住所、携帯番号、保護者連絡先、携帯アドレス、PCアドレス、生年月日、血液型を明記し、下記までメールでお申し込みください。

y.tanaka@hosei.ac.jp

（経済学部 田中優希）



申し込み〆切

2月5日（水）

※定員に達し次第〆切

3月13/14日 現地プログラム紹介



■ 1：現地の課題を理解する

新地町・相馬市・南相馬市の抱える課題を、現地復興のため活躍するリーダーのご案内を通じて理解します。

【フィールドワーク案内人】

避難指示解除にむけた準備

和田智行

(NPO法人福島県ベンチャー・SOHO・テレワーカー協働機構 事業推進員)

・原発事故により、妻子と共に会津若松へ避難中。小高区に帰還・移住する事業者の支援事業を立ち上げるため、2014年4月からは活動拠点を小高区に移す。

南相馬市



南相馬市は、鹿島区・原町区・小高区がそれぞれ原発から40km内、30km内、20km内に位置し、置かれた状況が異なります。南相馬市小高区は避難指示区域に指定され、住民1万2千人は全員避難していますが、平成28年4月の帰還が決定しています。避難中の小高区の方と共に、帰還に向け解決しなければならない課題について学びます。

行政との連携

日下智子

(株式会社トーシン 代表取締役) (NPO法人みらいと 理事)

・1972年生。新地町出身。事務用品会社の経営、子育てをしながら、まちづくりNPOのキーパーソンとして活躍している。

新地町



浜通り地域最北端、宮城県と接する人口8,000人の町・新地町では、町唯一のNPO法人メンバーの日下さんより、新地町のまちづくりについて伺います。岩手・宮城と比べ福島は復興が遅れていますが、なぜ新地町は住民の高台移転先の合意形成をいち早く完了させられたのか、一方で今抱えている課題とは何なのかを伺います。

農業

相馬



和田観光いちご園では約3分の2の敷地が津波被害を受けただけでなく、原発災害により土壌汚染が懸念されましたが、コンピューター制御でLED照明や温湿度を管理する「最新式水耕栽培いちご園」として平成24年1月15日(日)に営業を再開しました。いちごを食べながら、相馬の農業の現状や、事業上の課題を園の方から伺います。

■ 2：課題解決策をつくってみる

現地の人を交えたワークショップを通じて、ツアーで学んだ内容を振り返りながら、アイデアを出し合い、相双地区の課題解決策をつくります。

当日行程

※行程は予定です。自然災害その他の事情により変更になる場合がございます。

■ 1日目

(午前)

8:00 東京駅 発 (バス移動)

・昼食 (道の駅ふくしま東)

(午後)

☆FW1：避難指示解除にむけた準備 (南相馬市小高区)

ご案内：和田智行

一人のいない町、小高区を実際に歩き現状を視察

・宿泊場所「みなとや」(相馬市) 夕食

・夕食後、一日目振り返りワークショップ

■ 2日目

(午前)

・(※任意)相馬市松川浦地区散策

☆FW2：行政との連携 (新地町)

ご案内：日下智子

☆FW3：農業 (相馬市)

ご案内：和田観光いちご園

・昼食 (報徳庵。地域復興のハブとなっている仮設店舗内にあります。)

(午後)

・課題解決型ワークショップ

・20:30頃 東京駅 着